

【DP (ディプロマ・ポリシー)】

(令和6年度以降入学生)

・人材育成目標 (社会における顕在・潜在ニーズ, 卒業生が身につけるべき資質・能力)

教育学部では、学士課程において以下に掲げる資質・能力を身につけた者に学士(教育学)を授与します。

1. 学習環境の変化や学習者の多様性に柔軟に適応するため、教育に関する理論や法律・制度を理解するとともに、教育や専門領域における課題について継続的・発展的に学び続けることができる。(学び続ける教師)
2. 学習者の学習成果と課題を的確に把握し、教育実践を省察する力量を獲得することで、教育実践の継続的な改善に取り組むことができる。(教育実践を省察する教師)
3. さまざまな場面でリーダーシップや協働の経験を積むことで、学校を越えて地域や社会に肯定的な影響を与え、変化する社会の中で未来において学習者が必要とする能力を育むことができる。(社会における未来を創造する教師)

・目標としての学修成果 (学修成果として身につく具体的な資質・能力の項目)

1. 学校理解：学校での教育実践を広く歴史や法律・制度から捉えたうえで、より望ましい学校のあり方を追究することができる。
2. 探究力：教育や専門領域における課題を見出して、自ら進んで情報を収集したり知識や技能を深めたりすることができる。
3. 教師像・倫理：教育を通じて公正な社会を実現できる教師を目指して、教師として求められる倫理観や教育実践の基盤となる法令等を照らした行動・実践に取り組み、理想とする教師像を確立することができる。
4. 社会参画：地域や社会の課題解決を目指した活動に継続的に参加し、よりよい社会の実現に向けて能動的に行動することができる。
5. リーダーシップ・協働性：大学における学修・研究や体験学修・社会参加といったさまざまな場面において、率先垂範の行動をとったり、他者と協働したりすることができる。
6. 教科知識・技能：教科内容や学問領域に関する知識とそれらをふまえた指導方法に関する知識を身につけ、授業等で実践できる。
7. 授業実践：的確な教材分析をふまえて授業を設計・実践・評価したり、授業の成果と課題について省察・改善したりすることができる。
8. 学習者理解・支援：多様な学習者の学習機会を保障するために、発達段階や多様性をふまえた支援を行い、学習環境を工夫できる。
9. ICT・データ利活用：学習・授業改善のための教育データの利活用の知識を有し、学習者の

情報活用能力を育成したり ICT の効果的な活用方法や活用場面を構想・実践したりすることができる。

- ・ DP と特に関わりが深い SDGs17 の目標（学士課程を通じた資質・能力の修得が、社会における SDGs のゴール達成とどのように関わるか）

SDG「4. 質の高い教育をみんなに」

学士（教育学）取得者は、4年間の学修を通じて、教育を通じて公正な社会を実現できる教師としての資質・能力を修得しており、市民性の育成や多様性の尊重が求められる学校現場等により専門性を発揮できる基盤を有しています。

【CP（カリキュラム・ポリシー）】

（令和6年度以降入学生）

1. 教育課程の編成方針

- （1）1年次～2年次では、主として全学基礎教育を履修します。全学基礎教育は、現代社会が求める基礎的な資質・能力の成長を促すために、すべての学士課程に所属する学生が共通して学修する教育課程であり、「島大 STEAM 科目群」「ユニバーサル科目群」「地域創生科目群」「教養育成科目群」の4つの科目群に分かれます。このうち「島大 STEAM 科目群」「ユニバーサル科目群」には必修科目が設定されています。「島大 STEAM 科目群」では「数理・データサイエンスへの誘い（2単位）」と「情報科学（2単位）」、「ユニバーサル科目群」では「英語（6単位）」と「初修外国語（4単位）」、「SDGs 入門（2単位）」が必修科目です。このほかに、選択科目として4つの科目群から幅広い分野の授業科目を選択履修し、全学 CP が定める各科目群の目標への到達を促します。
- （2）全学基礎教育以外のカリキュラムは「専門教育科目」と「教育体験活動」から構成されます。「専門共通科目」「主専攻専門科目」「副専攻専門科目」からなる専門教育科目で自らの主専攻・副専攻に応じた専門的知識・技能を身につけるとともに、それらを「基礎体験領域」「学校教育体験領域」からなる教育体験活動で実践します。理論と実践の往還を繰り返すことにより、教員としての高い資質を育成します。
- （3）教育学部では、SDGs の目標とその達成への理解を促すため、全学基礎教育の「SDGs 入門（2単位）」を必修科目として学修します。また、特に専門教育科目の「学校教育のための SDGs（2単位）」での学修を通じて、貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、

私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を学校教育において実現できる人材を育成します。さらに、全ての授業科目において、SDGsの17の目標との対応関係をシラバスに記載し、学生の関心に沿った授業選択を促します。

2. 教育課程における教育・学修方法に関する方針

- (1) 1年次の前期には、初年次教育プログラムとして専門共通科目の「教職論」「教育学部で学ぶこと」、基礎体験領域の「入門期セミナー」、学校教育体験領域の「学校教育実習Ⅰ」が設けられています。これらの授業・活動におけるグループ学習やプレゼンテーションなどの能動的な学修を通して、大学教育の基礎的な技能を身につけるとともに、主専攻・副専攻での学修への見通しを得ます。
- (2) 1年次の後期から主専攻専門科目、副専攻専門科目の履修が始まります（ただし、一部の専攻では1年次前期から履修可能な科目もあります）。これらの科目の履修を通して、市民性の育成や多様性の尊重が求められる学校現場でより専門性を発揮できる教師として必要な資質・能力を身につけます。
- (3) 教育体験活動は4年間を通して行いますが、特に3年次後期は「実習Semester」と呼ばれ、教育体験活動を中心に学修して教育実践力を高める学期として位置づけられます。この学期に「学校教育実習Ⅳ」「学校教育実習Ⅴ」「学校教育実践研究（の一部）」を行います。
- (4) 4年次には「卒業研究」「教職実践演習」が必修として課されます。「卒業研究」は自らの主専攻における学修の総決算であり、論文作成、演奏、作品制作などの形で4年間の学修成果を形にします。「教職実践演習」は教育職員免許状を取得するための最終関門であり、教育学部学生が本学部のディプロマ・ポリシーを満たしているかどうかを確認します。

3. 学修成果の評価の方針

- (1) 各科目の学修成果は、試験や課題等の成績及び取組状況等を考慮し、成績評価基準に基づいて評価します。成績評価の方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。
- (2) 教育学部には4年間にわたる学びの軌跡や成果を記録する「学修ポートフォリオ」と呼ばれる独自の履修カルテがあります。ここには本学部のディプロマ・ポリシーごとのGPAが数値化されて表示されます。教育学部生は学修ポートフォリオを卒業までに複数回作成し、教員からの指導を受けることで自らの適性や課題を主体的に把握する自己教育力を育みます。学修ポートフォリオは「教職実践演習」でも活用されます。

【AP（アドミッション・ポリシー）】
（令和7年度以降入学生）

●求める学生像

島根大学教育学部では、特色ある教育課程のもとで教師になることを希望する、次のような学生を求めます。

1. 高等学校段階の基礎的学力を備えており、教師に要求される専門的知識・技能を深く学ぼうとする人。
2. 豊かな人間性、子どもに対する愛情、教育的情熱を有する人。
3. 論理的思考のもとで、自ら課題を発見し探究する姿勢を有する人。
4. 他者との協働や対話を図りながら、社会の発展に貢献しようとする人。

以上の受入方針に基づいて一般選抜・総合型選抜を行い、教師をめざす多様な資質・能力を有する学生を受け入れます。

●入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）

1. 学校教育課程Ⅰ類

【基礎的知識と思考力を重視】

大学入学共通テストでは、各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているかを評価します。

「小論文」では、提示された課題に対する理解と文章表現を通して、教職への興味・関心、論理的思考力、表現力について評価します。

2. 学校教育課程Ⅱ類

・保健体育科教育専攻

【基礎的知識と実技能力を重視】

大学入学共通テストでは、各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているかを評価します。

「実技」では、入学後専攻での学習に必要な実技について、技術や能力などを評価します。選択種目試験では基礎的技能を試験し、また特技種目試験では基礎技能と応用技能を試験し、その種目に関する能力や適性を総合的に評価します。

・音楽科教育専攻

【基礎的知識と実技能力を重視】

大学入学共通テストでは、各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているかを評価します。

「実技」では、入学後専攻での学習に必要な実技について、技術や能力などを評価します。全

員対象試験では基礎的音楽能力を、特技試験では音楽表現のための技術的到達度と表現能力を試験します。

・美術科教育専攻

【基礎的知識と実技能力を重視】

大学入学共通テストでは、各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているかを評価します。

「実技」では、入学後専攻での学習に必要な実技について、造形に関する基本的な表現能力を試験し、技術や能力などを評価します。

一般選抜（後期課程）（学校教育課程Ⅰ類のみで実施）

【基礎的知識と教職への意欲・適性を重視】

大学入学共通テストでは、各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているかを評価します。

「ペーパーインタビュー」では、志望理由や自分自身の経験・興味の記述を通して、教職への意欲・適性と、表現力を評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん一般型）

（学校教育課程Ⅰ類のみで実施）

【読解力・思考力・表現力、主体的な学びの経験と教職への意欲を重視】

「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価するとともに、教職への意欲や適性について評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）地域志向入試（地域教員育成型）

（学校教育課程Ⅰ類のみで実施）

【読解力・思考力・表現力、主体的な学びの経験と教職への意欲を重視】

「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価するとともに、教職への意欲や適性について評価します。また、「教職への学びレポート」では、将来の教職につながる学びの経験や構想について評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）芸術・スポーツ入試

（学校教育課程Ⅱ類のみで実施）

当該専門分野を学ぼうとする強い興味・関心、そのために必要な基礎的能力・経験等を有する学生を求めます。

・保健体育科教育専攻

【読解力・思考力・表現力、保健体育の専門性に関する主体的な学びの経験と教職への意欲を重視】

「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価します。ま

た、保健体育に関する興味・関心、学習意欲などを中心に、教職への意欲や適性などについて評価します。さらに、「実技」では、保健体育における実技の学習に必要な基礎的運動能力について試験を行い、「スポーツ活動調書」の記載内容を点数化します。

・音楽科教育専攻

【読解力・思考力・表現力、音楽の専門性に関する主体的な学びの経験と教職への意欲を重視】

「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価します。また、志望する音楽分野に関する興味・関心、学習意欲などを総合的に評価します。さらに、「実技」では、専門的な実技力、教職に欠かせないピアノの基礎的な演奏能力を評価します。

・美術科教育専攻

【読解力・思考力・表現力、美術の専門性に関する主体的な学びの経験と教職への意欲を重視】

「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価します。また、美術に関する興味・関心、基礎的内容の理解等を中心に、教職への意欲や適性について評価します。さらに、「実技」では、水彩画の制作をとおして、描写力、構成力、色彩感覚等を試験し、「美術活動調書」の内容と総合して評価します。

●各選抜方法における求める力（評価する力）

区分		選抜方法	知識 技能	読解力 思考力 表現力	協調 協働性	知的好奇心 探究心	実技能力	教職への 意欲・適性	地域への 志向
一般選抜		大学入学共通テスト	◎	◎					
		小論文		◎				◎	
		実技					◎		
		大学入学共通テスト	◎	◎					
		ペーパーインタビュー		◎				◎	
総合型 選抜 I	へるん一般型	「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎			
		読解・表現力試験		◎					
		志望理由書を用いた「面接」	◎		◎	◎		◎	
	へるん特定期 地域志向入試 (地域教員育成型)	「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎			
		教職への学びレポート		◎				◎	◎
		読解・表現力試験		◎					
	へるん特定期 芸術・スポーツ入試	志望理由書を用いた「面接」	◎		◎	◎	◎		◎
		「調査書」、「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎			
		読解・表現力試験		◎					
		志望理由書を用いた「面接」	◎		◎	◎		◎	
		実技(※)					◎		

(※)保健体育科教育専攻の「スポーツ活動調書」、美術科教育専攻の「美術活動調書」を含みます。